北方建築総合研究所 NEWS LETTER
北方かわらばん
Mail Magazine VOL.19 2011/03/07
「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究 本部 北方建築総合研究所(旧・北海道立北方建築総合研究所が発行している メールマガジンです。
トームページ等で配信登録された方にお送りしています。 アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。
※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。
今月号のトピックス
* • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
第19号の内容はこちらです。
■イベントのお知らせ □調査研究発表会(旭川)の開催について
■特集 「構造計算適合性判定」のめざすもの
■研究紹介 「構造計算適合性判定センターにおける調査研究」
■最近の研究所の動き □「北総研意見交換会(胆振)」を開催しました

■北総研からのお知らせ □構造計算適合性判定センターから

■【調査研究発表会(旭川)の開催について】

日程:平成23年5月18日(水曜日)

場所:大雪クリスタルホール(旭川市神楽3条7丁目)

平成22年度調査研究も年度末を迎えて、今年度成果のとりまとめが大詰めを 迎えています。

例年通り、終了した研究課題については調査研究発表会(旭川)を開催し、皆 様へ報告いたします。

平成22年度は21年度と比べて2倍の終了課題数があること、昨年のアンケート調査では1日間の開催のほうがよいという意見をいただいており、今回は分科会形式による1日間の開催することといたしました。

このため、大雪クリスタルホールをお借りしての旭川の発表会では初めて所外 施設での発表となります。

開催日は5月18日となりますが、開始時間や発表プログラム等については、 現在検討中で、確定し次第、速やかにお知らせいたします。

連休明けでお忙しい時期であるとは思いますが、ぜひ足を運んでいただけるようお願いします。

(企画課 伊藤)

特集 「構造計算適合性判定」のめざすもの

◆制度創設の経緯

平成17年11月の構造計算書偽装事件発覚以降、全国で同様の事例が表面化し、構造計算に対する信頼が揺らぐ事態となりました。国は、これを契機に建築確認・検査を厳格化することとして「構造計算適合性判定制度」を導入しました。

これは、一定規模以上の建築物の建築確認申請に対して、建築主事や確認検査機関の審査とは独立して、構造の専門家により構造計算の適法性を判定するもので、北海道では唯一、「構造計算適合性判定センター」(札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館西棟)が判定を担っています。

◆「構造計算適合性判定」のいま

平成19年6月の業務開始以来、本年2月末までに1655件(2219棟)の判定依頼を受けました。必要な手続き期間や費用が増えたため疎ましく思われがちですが、これまで構造計算書や図面に対し、全く修正追記を要しなかった依頼はわずか14件だった状況を見ると、このような制度はもうしばらく必要なのかもしれません。

「構造計算適合性判定」は、単に計算の正しさのみのチェックではなく、そこに用いられた数値や仮定の妥当性、計算結果の適切性も含めて判定します。ピア・チェック(専門家によるダブルチェック)ともいわれるように、設計者と判定員は互いに構造の専門家であり、原則面談によるヒアリングによりその設計意図を十分把握し、こちらの審査意図が正しく理解頂けるように努めています。また、建築確認審査の一環として円滑に判定が行われるためには、建築主事や確認検査機関による構造審査も重要であることから、判定センターでは、構造審査技術の維持向上のため各特定行政庁を訪問しての勉強会や意見交換、調査研究による情報提供を行っています。

◆「制度」を通じてめざすもの

地方独立行政法人という公的機関の責務として、判定は建築における道民生活の安全安心のためにあり、厳正適確に実施することが求められます。制度上は「設計者」対「審査者」でも、両者とも構造設計の専門家として、安全な住まい、安心な利用への思いは同じであると推察します。

ともに不断の努力と技術の研鑽により、設計能力、審査能力を維持向上させ、 質の高い建築構造設計をめざさなければなりません。今後も立場を問わず構造 技術者として技術的な議論ができる環境づくりが求められ、関係団体と協力し て講習会への講師派遣や勉強会なども進めていくことが必要です。

(構造判定G 十河)

研究紹介 「構造計算適合性判定センターにおける調査研究」

建築確認審査の一環である「構造計算適合性判定」を円滑に進めるために、建築確認審査全体での構造審査に役立つよう、「建築確認申請における構造審査等支援のための調査」を実施し、次のような情報収集・分析、情報提供を行っています。

(1) 構造審査・構造設計の参考となる情報提供

ほとんどの構造設計者は構造計算プログラムを用いて計算を進めますが、プログラムは多数あってそれぞれ特性があり、同じ建物の計算でも、どれも全く同じ計算結果になるとは限りません。また、構造設計や計算に必要なすべての事項が法令に示されているわけではなく、設計者が建物の特性に応じて適切に判

断しなければなりません。そこで、各種プログラムの出力結果の差異や設計者 判断に対する指摘事項を整理し、構造審査者や構造設計者の方々の参考になる ようホームページ等を通じて情報提供しています。

http://www.nrb.hro.or.jp/nrbc/kenkyuuseika.html

(2) 勉強会による情報共有

審査者同士の審査技術情報の共有はそれぞれの業務に役立つため重要です。毎年、各特定行政庁の建築主事や構造審査担当者の方々にお会いし、構造審査や関係法令規準に関する勉強会や、審査上の問題や疑問についての意見交換を実施しています。ここで集約した意見や審査上の疑問は、さらに整理分析してまた発信されます。

このような調査研究や情報交流により、判定担当者は構造審査を担当する方々とともに常に審査技術の向上をめざし、厳正適確で一貫性のある審査を迅速に 進めるよう努めています。

(構造判定G 十河)

 最近の研究所の動き

■【「北総研意見交換会(胆振)」を開催しました】

2月1日(火)に室蘭市において、北総研意見交換会を開催しました。

この意見交換会は、北総研が取り組む研究及び成果の普及、技術開発支援等に関して建築関連団体と意見交換を行いニーズを探ることを目的として開催しているもので、今年度3箇所目の開催となりました。

建築関係団体から5団体11名と民間企業から1社1名、管内市町村から3市4名、胆振総合振興局から3名の方にご参加いただきました。

胆振の意見交換会では、地域資源を活用した地域の活性化をテーマとして、北 総研と連携した取組事例(製品開発事例)をあいもり株式会社の小松様からご 紹介いただいた後、北総研環境科学部の吉野研究主幹から現在北総研で実施し ている地域資源を活用した共同研究事例を紹介しました。

意見交換では、北方型住宅ECO普及の原動力となった国の補助制度(長期優良住宅先導事業)を原動力に普及に弾みがついた、今後の北方型住宅や北方型住宅ECOのあり方、今後の住まいづくりが話題の中心となりました。

そのなかで、世の中に「次世代住宅」「北方型住宅」「長期優良住宅」など色んな言葉がありすぎて、ユーザーがわかりにくい、といった意見がありました

確かに、ちょっと考えただけでも、たくさんの「○○住宅」といったネーミングが浮かんできます。北方型だけでも、「北方型住宅」「北方型住宅ECO」「北方型住宅ECOプラス」と3つの言葉。

快適な住まいづくりの提案をする上で、このような配慮も必要なんだということを改めて認識しました。

今回の意見交換会(胆振)をもって、今年度は終了となります。 開催地域は未定ですが、来年度も意見交換会の実施を予定しています。 開催にあたりご協力いただきました釧路、オホーツク、胆振の皆様、ありがと うございました。

(企画課 西川)

- ■【「公共建築物等に木材を利用するために~2011木製サッシフォーラム」を開催しました】

2月4日(金)に、「公共建築物等に木材を利用するために~2011木製サッシフォーラム」を旭川市大雪クリスタルホールで開催し、当日は150名近くの方に来場いただきました。(林産試験場、北海道木製窓協会との共催)

講演では、道水産林務部巻口課長から木材利用促進法に基づく道の方針について説明があり、大規模木造建築事例として「コープさっぽろ西宮の沢店」について設計者の(株)清和設計笹木代表から建築概要について紹介、また当所の居住科学部松村より「木造公営住宅の効果と戦略」と題しての研究発表、木造公住の実例として弟子屈町営住宅について設計者のMOBI建築・都市研究所辻谷代表から紹介がありました。

続いて、講師をパネラーに意見交換会を行い、会場の参加者から活発な質問や 意見があり、建築物の木造化・木質化についての関心の高さがうかがえました

昨年10月施行の「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」は 今年実質的な初年度を迎え、木造建築への関心やニーズや一層高まることが予 想されます。北総研では今後も、木造建築についての各種の研究や成果普及の 取り組み、情報発信を進めてまいります。

(企画課 本荘)

- **********
- ■【モンゴルの建築関係技術者が北総研を訪れました】

2月10日(木)、道内で建築技術について研修中のモンゴル国の建築技術者 3名が北総研を見学に訪れました。 特に、北総研が取り組む地場の木材資源を活用した製品開発や太陽熱利用にかかる研究開発、建築物の高断熱技術などに関心を寄せていました。 研究所の施設見学では大型の試験施設や屋外実験住宅を興味深く見学しました。

北海道では同じ寒冷地域のロシア極東地域や中国東北部との建築技術交流が少しずつ進んでいますが、モンゴル国との技術交流もさらに進展するよう、北総研でもお手伝いしていきたいと考えています。

(企画課 古屋)

■【「北海道寒冷地技術セミナー」を開催しました】

2月28日(月)にホテルポールスター札幌において、「北海道寒冷地技術セミナー」を開催しました。

このセミナーは、寒冷地対応ものづくり製品・技術普及促進事業の一環として、委託者である北海道(経済部)が主催、受託者である寒冷地ものづくりコンソーシアム(一般財団法人旭川生活文化産業振興協会・北方建築総合研究所)が運営を行いました。

セミナーでは、初めに「ロシア極東地域・中国東北部の社会経済状況」と題して、北海道銀行国際部長の穴田雄一氏より、ロシアと中国の産業や経済現況、 ビジネスにおけるポイントを事例を交えながらご紹介いただきました。 次に、「ロシア・中国極東地域における住宅計画事業の展開」と題して、北海

次に、「ロシア・中国極東地域における住宅計画事業の展開」と題して、北海 道大学大学院工学研究院教授の瀬戸口剛氏より、ロシアを中心に住宅事情、施 策と今後の展開、事業の可能性についてご紹介いただきました。

最後に、「寒冷地における未利用熱源活用事例-道内企業による技術開発の紹介-」と題して、道総研工業試験場研究主任の平野繁樹氏より、温泉排熱を利用した融雪システムの開発事例 2 件、搾乳直後の生乳がもつ熱を利用した酪農家向けヒートポンプの開発事例をご紹介いただきました。

企業、経済団体の方を中心に101名の参加があり、同じ寒冷地域である中国 東北部・ロシア極東地域への北海道発・寒冷地技術の販路拡大に対する関心の 高さをうかがうことができました。

本事業は、今回のセミナーをもって終了となります。

昨年10月には、中国調査(瀋陽市)に参加し、経済発展のスピードを目の当たりにしました。そこにビジネスチャンスがあると思われる一方で、住宅事情や習慣、人々の意識の大きな違いも目の当たりにし、「北海道」を売り込むにはどうしたらいいか、ということを日々考えるようになりました。

「北海道を売り込む」を「北総研を売り込む」にも当てはめ、今回の貴重な経

験を今後の北総研の普及啓発事業に活かすことができれば、と考えています。

中国調査をまとめた海外訪問記については、北総研ブログにおいて連載しています。ぜひご覧ください。

http://www.do-sumai.jp/weblog08/

(企画課 西川)

■【2月の業務報告】

平成23年2月の受付件数

□依頼試験(担当:性能評価課)

依頼試験 累計231件

設備使用 累計 34件

性能評価 累計 5件

□施設見学(担当:企画課)

件数8件(累計 77件)人数79名(累計846名)

□技術相談(担当:企画課)

件数 29件(累計149件)

※累計は、平成22年4月~平成23年2月の累計を表示しています。

■【構造計算適合性判定センターから】

□2月の判定業務

受付 34件(42棟)

結果通知 19件(26棟)

2月の判定依頼は、事務所5件、学校、倉庫車庫、工場、店舗が各4件の他、 病院、共同住宅、畜舎等でした。

総判定日数(受付から結果通知までの期間)の平均は27.3日、実判定日数 (設計者の修正期間を除く実際の審査期間)の平均は9.2日でした。

判定依頼件数が増加してきています。迅速な適合性判定を進めるため、設計者

の皆様には、建築確認申請における構造計算書等の不備や不整合がないか確認 されますようよろしくお願いいたします。

(構造判定G 十河)

【編集後記】

3月に入り、旭川では日毎に雪融けが進み春の気配を感じるようになってきま した。

この時期、研究報告のとりまとめ、外部委員会の出席、学会論文の締め切り、 研究課題評価や外部との会議・研修会開催など年度末のとりまとめ業務に職員 が奔走しています。

同時に新年度の準備も始めています。今号では4月以降の行事についてもご案内しており、予定が決まりましたら順次このメルマガでご案内致します。

今後ともメルマガの内容をさらに充実させていきたいと思いますので、皆様方からも情報やご意見などありましたら是非お寄せください。

(企画課 古屋)

管理者からのお知らせ

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違い により配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html 変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と 記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行: (地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所